



村松畳店

畳の製造販売

代表者名 村松 八郎

TEL 055-262-3224

設立年月日 1932(昭和7)年4月1日

E-Mail wejust060@gmail.com

所在地 〒406-0805
山梨県笛吹市御坂町栗合
128-2

URL https://muramatsu-tatami.com/

従業員数 1人



取材

村松 智之

テーマ

薄畳による和モダン空間の提案での新規顧客拡大

ウィズコロナ・ポストコロナを見据えて、和モダンという市場に着目。工務店との連携で床暖房対応薄畳の開発販売に挑戦した。畳製造ロボットを導入して従来の製造ライン・従来型和室の減少という課題を解決。価格以外の付加価値を提供することで競合他社との差別化を図る準備が整った。

夏は涼しく冬暖かく、住む人を癒やしてくれる畳。住宅の洋風化に伴い、和室に敷く畳は、洋風になじみやすくバリアフリーに適した「薄畳」の需要が増えているという。住宅メーカーや工務店のウェブサイトで和室の間取りプランを見ても、薄畳を使った提案がそのほとんどを占めていることが分かる。

笛吹市御坂町の村松畳店の3代目村松智之さんによると、畳にはさまざまな厚さがあり、昔ながらの厚さ55-60ミリの畳を「厚畳」とすると、同店では20ミリ以下の畳を薄畳と呼んでいる。薄畳は増え続ける需要に対し、裁断や縫着の技術が難しく、従来の機械や製造方法では量産が難しいという難点があった。

同店で一般的な畳の製造工程を例に挙げる。工程は5段階。①畳の土台である畳床（たたみどこ）を裁断する ②繊維状のい草を織った畳表（たたみおもて）を畳床に張っていく。框（かまち）と呼ばれる、畳の短い方の辺で縫い合わせる ③色や模様がある布「縁（へり）」を畳表に縫い付ける（平刺しという）④畳の四隅を固定する ⑤畳床と縁を返し縫いでさらに固定して完成する。

注意が必要なのが工程③の平刺しだ。従来の機械では±1～2ミリの誤差が生じてしまうことがあり、手作業の調整が必要だった。特に薄畳の場合は

機械による縫い付けが難しく、手作業での仕上げは必須だった。また、工程ごとに畳を別の機械に移したり、畳の向きを変えたりする必要があり、人がついていなければならず、同時進行は難しかった。製造時間は畳1枚あたり40分かかっていた。

作業は村松さんが一人で行っているため、製造枚数には限界があった。また業界全体の課題として、顧客に畳の魅力をあらためてアピールできる新たな選択肢や提案を用意していくことが求められていた。そこで同店は、平刺しと返し縫いを行う機械を最先端の機種に買い換え、新たな製造ラインを構築し、床暖房対応の薄畳を開発と作業全体の効率化を目指した。

導入したのは、「全自動平刺・返縫機両用ロボット『VICTORY』」。刃物の角度が0°～13°まで変更可能で、薄畳や縁なし畳などの特殊な畳にも難なく対応。パソコンで専用ソフトに畳のサイズや種類などを入力すると本体にデータが転送され、運転ボタンを押せば、あとは自動で作業してくれる。

厚さ15ミリの薄畳をつくる試作では、工程③で生じやすい誤差の範囲と全工程にかかる時間を検証した。その結果、誤差なく縁付けができることと、全工程が30分で完了し、1時間に2枚の畳を製造できることが確認できた。



●全自動平刺・返縫機両用ロボット『VICTORY』



●ミシン部分。縁あり、縁なしどちらにも対応



ボタン操作で畳の製造が可能になり、増員も検討中

「全自動なので、畳の向きを変えろといった作業がなく、人がついていなくてもいい。この機械が動いている間、別の畳の框を縫うなど他の作業ができるので効率が上がりました。体の負担も減りました」と喜ぶ。

今後は人員を増やすことも検討している。「年を取ってくると、畳を作るだけでなく運ぶことも大変になってきます。例えば団地の5階から畳を上げ下ろししたり…。だから仕事がこれ以上増えてきたら人を増やすことを考えなければならないですね。VICTORYならボタン操作で作業が可能なので、未経験者や女性の方も機械オペレーターとして雇用できる設備だと思います」

創業者は祖父・資造さん。県内の老舗畳店に弟子入りして経験を積んだのち、独立して1932（昭和7）年に創業した。その後は村松さんの父・八郎さんが2代目を継いだ。

「子どものころ、おじいさんがここでよく畳床をつ

くっていたのを覚えています。今は畳床は問屋さんから仕入れるのがほとんどですが、昔は畳床も各店の手作りでした。材料のわらをここに並べるんですけど、そういうのを遊びながら手伝っていました」

家業を継ぐことを自然と意識するようになり、高校卒業後は畳の専門技術が学べる京都府の職業訓練校へ。4年間学び、帰郷。家の仕事を手伝い始めた。

八郎さんは4年前に引退し、現在は村松さんが店を切り盛りしている。畳について深い知識と手縫いの高い技術を持つ者に与えられる「一級畳製作技能士」と、畳の状態の把握や健康に良い畳の選別などができる「畳ドクター」、全日本畳事業協同組合が認定する品質管理責任者の資格を持つ。県内の工務店を主な取り引き先として、新畳の製造販売だけでなく、畳床をそのまま生かして新しい畳表と縁に取り換える「表替え」や、畳表をひっくり返して再利用する「裏返し」などのアフターケアにも力を入れている。



●難しい縁の縫い付けを完了



●返し縫いも美しくスムーズに仕上げる



●作業中の村松さん



ものづくりの楽しさとお客さんの喜びの声が励み

原材料にもこだわり、一部の廉価製品を除いて畳床、畳表など全て国産が基本。い草は、日本一の生産量と高品質を誇る熊本県産を90%以上使用している。「畳は日本の風土に合った床材です。自然素材でできているので、梅雨の時期は余計な水分を吸い、乾燥する季節は湿気を出してくれるんですよ。あとはやはり、ゴロンと横になったときの気持ち良さですね。ほかの床材にはない優しさと温かみが魅力です」

コロナ禍で人々が家の中で過ごす時間が長くなり、自宅での過ごし方を見直したり、傷みが気になっていた部分の修繕、リフォームをしたりと、住環境を整える人が増加した。同店の挑戦は、こうした社会の変化を受けた取り組みでもある。床暖房は畳が薄い方が熱を伝えやすく、置き畳として使ってもつまづきにくいという利点がある。県内ではまだ製造に対応している畳店が少なく、新たな製造機の導入は大きな強みになりそうだ。



●熊本県産の高品質な畳表



●笛吹ラインに面した店舗